

のらボーイ&のらガール ～食農教育プロジェクト～

教育・研究

課外活動

ボランティア

地域交流

代表者：農学部生物生産科学科 3年 寺尾 正樹

連携先

のらっくす農園、ひさまつ農園、アサザ基金、グランドワーク笠間、そば打ち同好会、牛久うれしく放送局、いばらき子ども大学、阿見町男女共同参画センター

顧問教員

小松崎 将一（農学部・教授）

参加者

寺尾 正樹（農学部生物生産科学科 3年）
田辺 修都（農学部生物生産科学科 3年）
高間 梨央（農学部生物生産科学科 3年）
青木 梨乃（農学部生物生産科学科 3年）
松山 直樹（農学部生物生産科学科 3年）
増澤 龍一（農学部生物生産科学科 3年）
山田 尚主（農学部資源生物科学科 3年）
菅野 可菜（農学部資源生物科学科 3年）
松岡 拓志（農学部地域環境科学科 3年）
佐藤 充（農学部地域環境科学科 3年）
佐々木亮輔（農学部生物生産科学科 4年）
國分 拓也（農学部生物生産科学科 4年）
小林 希美（農学部生物生産科学科 4年）
鎌塚 倫成（農学部生物生産科学科 4年）
押田 朋起（農学部資源生物科学科 4年）
武波 洋志（農学部資源生物科学科 4年）
小野 涉（農学部資源生物科学科 4年）
飯村 拓也（農学部資源生物科学科 4年）
木村 茉由（農学部地域環境科学科 4年）
五十嵐瑞稀（農学部地域環境科学科 4年）
渡邊亜由子（農学部地域環境科学科 4年）

小林 佳奈（農学部地域環境科学科 4年）
久保田智大（農学部地域環境科学科 4年）
向井 龍太（農学部地域環境科学科 4年）

プロジェクトの概要

現在、農業に関わる人たちの数は減少しており、食や農業に関する知識、関心の低下が危ぶまれています。それは国内トップクラスの農業産地である茨城県でも例外ではなく、耕作放棄地の面積は年々増加しています。私たちは国内第2位の農業県である茨城県で農業との関わりが薄い方たちに学生という立場から食や農業について正しく知ってもらいと共に、地域をより活発に盛り上げることを目的としています。

主な活動としては耕作放棄地の開拓、開拓した土地を利用した耕作・食農教育イベントの企画・運営、農業・農村を応援する大学生サークルネットワークへの参加、NPO法人グランドワーク笠間さんとの協同活動、牛久沼周辺の耕作放棄地の開拓、学園祭への出店、ラジオの収録などがあります。

活動日は基本毎週土曜日で、このほかに農作業の関係や食農教育イベントの開催、外部連携との活動のために、不定期に活動が追加されます。

プロジェクトの成果報告

・耕作放棄地の開拓、耕作、イベントの企画

現在、私たちはのらっくす農園・ひさまつ農園の2つの圃場を管理しており、それらは

耕作放棄地であった。今年は先代の学生が開拓した面積を2倍近く拡大することができた。今年度は両圃場で土壌検査を行い、農場主にアドバイスを頂きつつ、しっかりとした施肥管理のもと作物の栽培を行った。

今年度は昨年度の夏野菜とそば、サツマイモに加え、ジャガイモ、カボチャ、玉ねぎ、チューリップ、大根、葉物野菜など様々な野菜類の栽培を無農薬で挑戦しました。そのほとんどが成功しましたが、カボチャや大根は大きさが今一つといった具合で、来年の課題になりました。

また、私たちはのらくくす農園を利用して小学生とその保護者を対象に食農教育活動を行いました。昨年度は阿見町周辺の小学生を招待していましたが、今年度はつくば市や牛久市の小学生への招待を行い、範囲の拡大につながった。夏には蕎麦の種まきと夏野菜カレー作りイベントを行った。昨年作成したピザ釜のレンガを利用し、カレーとご飯を炊いた。参加者にはそばの種まきをしてもらったのちに、夏野菜の収穫と調理を体験していただいた。秋にはそばの収穫と脱穀を体験していただきました。脱穀や選別には現在使用されているような機械ではなく手動の道具を使用していただきました。また、私たちが栽培したサツマイモを配らせていただきました。そして、この秋のイベントでは参加者の数がこれまでのイベントの中で最大となりました。冬には、そば打ちの体験をしていただきました。参加者が多く2日に分けて開催しました。これは蕎麦打ち同好会の方や阿見町男女共同参画センターの方の協力で開催することができました。

また、夏、秋、冬のすべてのイベントにおいて子供たちとのレクリエーションと作物や農業に関する授業を行いました。



蕎麦打ちイベントでの集合写真

・イベント後の参加者アンケートに基づいた成果

農業を参加者に体験していただくことで農業に対する3Kの固定観念を捨てていただくことができました。また、女学生が農業をしていることで、農業をする女性のイメージアップにつながりました。

耕作放棄地の多い茨城県で農地を有効に活用できました。

本格的な食農教育により、児童やその保護者が「食」や「農」に対する正しい知識、理解を得ることができ、農業における担い手不足や「食」の分野における食生活の乱れなどの課題に良い影響を与られました。

茨城県常陸太田市特産の常陸秋そばの知名度を上げることができました。

茨城県が北海道に次ぐ第2位の農業県であることを知っていただくことができました。保護者の方から子どもが集中して話を聞いていて驚いたと伺い、このイベントが参加した児童にとって教育の場になったという自覚と誇りを持つことができた。

・農業・農村を応援する大学生サークルネットワークへの参加

全国の大学の農業サークル17団体が参加しているネットワークで年に数回、各県で交流会を兼ねた農作業を行っています。夏に世

界農業遺産である金沢の千枚田で稲刈りを、冬に沖縄県にあるサトウキビ畑でサトウキビ狩りなどを行いました。このように県内にはない伝統的な農業に触れることに加えて、志を同じくした全国の様々な仲間たちとの情報交換により、互いの長所を取り入れながら、今後の活動への士気を上げることにもつながりました。

・NPO法人グラウンドワーク笠間さんとの協同活動

笠間のまちおこしを目的としたグラウンドワーク笠間さんの活動にご一緒させていただき活動しています。農業の6次産業化のための研究、作物育成、町のお祭りのお手伝いなどをおこないました。

・牛久沼周辺の耕作放棄地の開拓

千葉大学の援農お宝発掘隊さんと協働しているプロジェクトで、昨年度からスタートしました。昨年度に続き今年度も牛久の耕作放棄地を水田に戻し、実際に稲を育てることに成功しました。開拓した水田は付近の小中学生が利用したり、アサザ基金が開くイベントに使用されたりすることとなりました。そのイベントのお手伝いとして参加することができました。

・鍬耕祭、茨苑祭への出店

阿見地区で開催された鍬耕祭では圃場で育てたサツマイモをサツマイモ汁として販売しました。台風の中での開催となりましたが無事完売することができました。水戸地区で開催された茨苑祭では来場者へのアンケート活動を行うことでその年の食農教育への関心やどのようなニーズがあるかを調査しました。

そのアンケートの結果の一部をここに掲載します。また、棒グラフの縦軸は人数です。

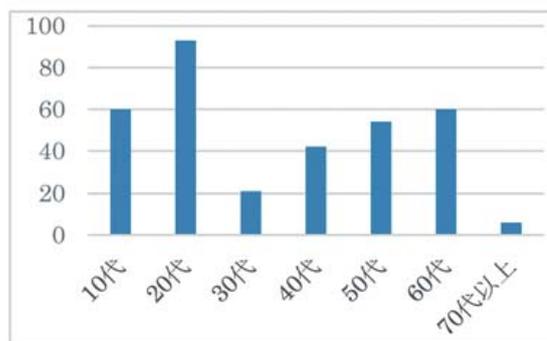


図1 年齢別

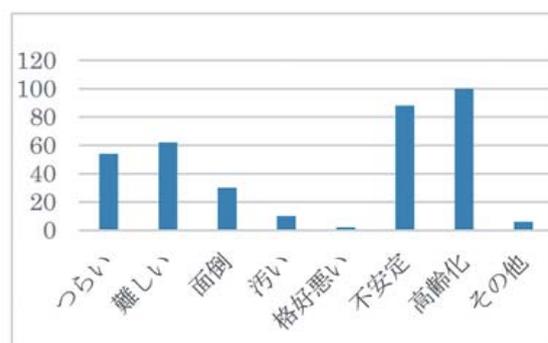


図2 農業に対するマイナスイメージ

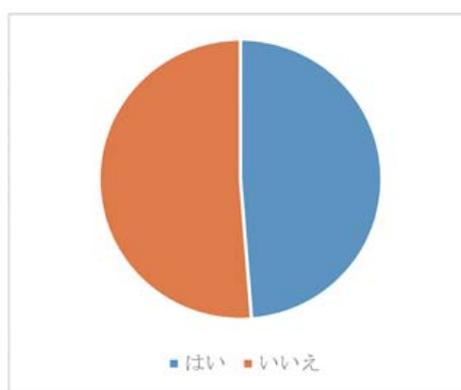


図3 茨城県が農業産出額第2位だと知っていたか。

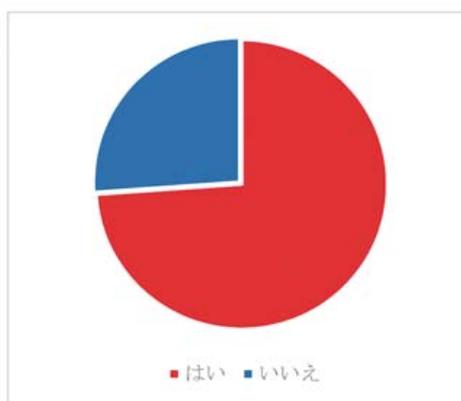


図4 食農教育イベントに参加したいか。

今年度は約300名の方がアンケートに協力してくださいました。図2の農業に対するマイナスイメージや図3にあるような茨城県が農業産出額2位であることの認知度の低さを私たちの開催するイベントにおいて改善して行きたいと考えております。

・今後の課題と展望

今年度は昨年度の課題となっていた規模の限界を少しではあるが超えることができた。だが、参加人数が増えることによって私たちの力不足が明らかになりました。そのため、来年度は学内外のイベントにスタッフや参加者として参加し、私たちがスキルアップすることを課題にしたいと考えております。